

第2次豊明市子ども読書活動推進計画(案)

～“読み聞かせ”から、子どもの心を豊かに育み、明るい未来へつなぐ～



2026年3月

愛知県豊明市教育委員会

～目次～

第1章 計画の基本的な考え方

1. 計画策定の背景	2
2. 計画の目的	2
3. 計画の対象	3
4. 計画の期間	3
5. 持続可能な開発目標(SDGs)との関連	3

第2章 現状と課題

1. 豊明市の読書関連の公共施設と課題	4
2. 豊明市の子ども読書活動の状況	8

第3章 計画の基本方針

1. 基本方針	14
2. 基本理念	15
3. 基本目標	15

第4章 子ども読書活動推進のための施策

基本目標 1 家庭、地域、学校等における子ども読書活動の推進

(1)家庭における子ども読書活動の推進	16
(2)地域における子ども読書活動の推進	17
(3)保育園等における子ども読書活動の推進	18
(4)学校等における子ども読書活動の推進	19
(5)市立図書館における子ども読書活動の推進	21

基本目標 2 関係機関との連携・協力体制の整備

(1)市立図書館と学校図書館との連携	23
(2)子育て支援機関との連携	24
(3)ボランティア団体との連携	24

参考資料

「豊明市子ども読書活動推進計画」アンケート結果	25
-------------------------	----

第1章 計画の基本的な考え方

1. 計画策定の背景

近年、情報通信技術の進歩により、子どもを取り巻く環境が大きく変化する中、インターネットを利用する子どもが増加し、学年が上がるにつれて長時間利用する傾向が見られています。また、こうした生活環境の変化が子どもの読書活動にも影響を与えている可能性が指摘されています。このような状況の中で、子どもが発達段階に応じた読書機会を得られ、自主的に読書に親しむ習慣が身に付けられるよう、家庭・地域・学校などが連携し、子どもの読書活動を推進していくことが重要となります。

2001年12月に成立した「子どもの読書活動の推進に関する法律」第9条第2項において、市町村は、子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画を策定するよう努めなければならないと定められています。

国においては、この法律に基づき2023年3月に「第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が策定され、①不読率の低減、②多様な子どもたちの読書環境機会の確保、③デジタル社会に対応した読書環境の整備、④子どもの視点に立った読書環境の推進が基本的方針に掲げられています。

愛知県においても、2019年2月に「愛知県子供読書活動推進計画(第四次)」が策定され、①家庭、地域、学校等における取組の充実、②子供読書活動推進支援の一層の充実が基本目標に定められています。

2. 計画の目的

子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠かせない活動です。子どもを取り巻く情報環境が急激に変化する時代において、このような読書で培われる力を育むためには、すべての子どもに読書の楽しさを知るきっかけを作り、読書体験を深めるような機会を提供することや、そのための環境作りに努めることが必要です。

豊明市教育委員会では、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき200

7年度に「豊明市子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動を押し進める施策の方向性をまとめ、取り組みを行ってきました。社会の生活環境の変化を踏まえ、子どもや保護者を対象として実施したアンケート調査や、子どもと関わる各施設への調査の結果をもとに、これまでの状況と課題を整理し、今後さらなる子どもの読書活動の推進を図るため、「第2次豊明市子ども読書活動推進計画」を策定します。

3. 計画の対象

この計画の対象は、18歳以下の者とします。また、保護者をはじめ、子どもの読書活動の推進に関わる団体なども対象とします。

4. 計画の期間

2026年度から2030年度までのおおむね5年間とします。

5. 持続可能な開発目標(SDGs)との関連

本計画の推進により、SDGs17の目標のうち、目標4「質の高い教育をみんなに」、目標16「平和と公正をすべての人に」の達成を図ります。



○持続可能な開発目標(SDGs)

地球に住むすべての人が暮らしやすい社会を将来に引き継いでいくため、2015年9月に国連総会で採決された世界共通の目標のこと。世界中の“誰一人取り残さない”を理念とし、2030年までに経済・社会・環境など様々な課題に取り組むために定められました。

第2章 現状と課題

1. 豊明市の読書関連の公共施設と課題

市内で、子どもが本に触れられる読書環境を整えている公共施設へ調査を行い、その結果をまとめました。蔵書数は2025年3月31日現在のものです。

●市立図書館、南部公民館図書室

施設名	蔵書数(2025. 3. 31現在)	所管	
豊明市立図書館	263, 598冊	図書館	
	(内訳)		
	一般書		164, 269冊
	児童書		86, 104冊
	雑誌		5, 054冊
	マンガ		1, 209冊
	紙芝居(大型を含む)		1, 736組
	視聴覚資料		5, 158点
	複製絵画		68点
南部公民館図書室	14, 115冊	生涯学習課 (蔵書の購入 及び管理は 図書館)	
	(内訳)		
	一般書		5, 265冊
	児童書		7, 931冊
	雑誌		523冊
	マンガ		341冊
	紙芝居(大型を含む)		54組
	視聴覚資料		1点

【取り組みと課題】

2024年1月に南部公民館図書室をリニューアルし、絵本、中高生向き図書、ビジネス書を中心に充実させました。しかし、図書カードの登録者数は市内在住者の3割にとどまっています。子どもの読書推進においても、市全体で取り組むために、市立図書館が他機関や関係団体との連携の中心となり、読書活動の推進と図書館の利用促進を周知していくことも課題となっています。

●市立保育園

施設名	蔵書数(2025. 3. 31現在)		所管
青い鳥保育園	図書 3,200冊	紙芝居 370組	こども保育課
二村台保育園	図書 2,070冊	紙芝居 357組	
館保育園	図書 2,501冊	紙芝居 370組	
中部保育園	図書 4,820冊	紙芝居 562組	
栄保育園	図書 2,800冊	紙芝居 300組	
南部保育園	図書 2,285冊	紙芝居 1,680組	
西部保育園	図書 2,042冊	紙芝居 378組	

【取り組みと課題】

すべての市立保育園で読み聞かせは、絵本を通したふれあいを大切に取り組んでいます。また、2018・2019年の豊明市立保育士研究グループでは絵本をテーマに取り上げ、年齢や発達に応じた絵本の選び方などを研究しました。

読書活動の啓発については、保育園で読んだ絵本の紹介や、読み聞かせを聞いた子どもたちの様子や反応を、保護者へ直接伝えていきます。また、人気の絵本やおすすめの絵本を掲示して紹介したり、「園だより」等で周知したりしています。

読み聞かせでは、より子どもの心を豊かに育むために、保育園と市立図書館がさらに連携できる仕組みを検討していくことが今後の課題です。

●児童館の図書室、子育て支援センター

施設名	蔵書数(2025.3.31 現在)		所管
中央児童館	図書 700冊		子育て支援課
北部児童館	図書 500冊		
コスモス児童館	図書 2,075冊		
南部児童館	図書 1,120冊	紙芝居 100組	
西部児童館	図書 2,380冊		
ひまわり児童館 ※子育て支援センター併設	図書 916冊	紙芝居 50組	
大宮児童館	図書 1,130冊		
子育て支援センターたけのこ	図書 1,207冊	紙芝居 72組	
子育て支援センターひまわり	図書 357冊		

【取り組みと課題】

すべての児童館、子育て支援センターで、絵本や紙芝居の読み聞かせを、読み聞かせボランティアと連携して行っています。

読書活動の啓発については、児童館によって新刊コーナーやおすすめ絵本コーナーを設置して、本の紹介を行っています。豊明市の児童館では、指定管理が進み、児童館と市立図書館のコラボイベントの検討や図書の団体貸出の活用などの児童館等のニーズも踏まえた連携が必要となります。児童館の図書空間に、本に親しむ環境づくりを市立図書館がどのように支援していくかが課題です。

●市立小学校、市立中学校の学校図書館

施設名	蔵書数(2025. 3. 31現在)	所管
豊明小学校	図書 7,184冊 紙芝居 29組	学校支援室
中央小学校	図書 16,694冊 紙芝居 162組	
沓掛小学校	図書 11,270冊 紙芝居 63組	
栄小学校	図書 13,307冊 紙芝居 80組	
二村台小学校	図書 11,473冊 紙芝居 70組	
大宮小学校	図書 9,650冊 紙芝居 203組	
三崎小学校	図書 10,059冊 紙芝居 35組	
館小学校	図書 6,200冊 紙芝居 30組	
豊明中学校	図書 9,535冊	
栄中学校	図書 約8,000冊 紙芝居 1組	
沓掛中学校	図書 7,584冊	

【取り組みと課題】

読み聞かせの実施や読書時間の確保について、ほぼすべての小学校で読み聞かせを行っており、週に数回の「朝の読書」や教育相談の待ち時間を読書時間にするなど、読書の機会を積極的に取り入れています。また、すべての中学校で「朝読書」を行い、読書時間を確保しています。

資料の充実については、限られた予算の中で、児童生徒の読みたい本を優先的に購入する学校が多く、調べ学習等に使用する最新の参考資料を豊富にそろえることが難しくなっています。その場合は、市立図書館から借りて提供するような工夫をしています。また、最近ではタブレットを用いて調べ学習を行うケースもあり、目的に応じて効果的に調べ学習を行う手段を選択しながら実施しています。

すべての学校に、図書館業務を専任する学校司書等が配置され、学校図書館司書教諭とともに様々な取り組みを行っています。

読書活動を促進するためのイベントについては、児童の描いた絵でしおりを作成して配布したり、くじ引きや図書館まつりを実施するなど、すべての小学校・中学校で図書に関するイベントが開催されています。

利用しやすい学校図書館の工夫について、特設コーナーの設置や、季節や行事に合わせた飾りつけなど、児童生徒の興味が湧く、親しみやすい空間づくりを行っています。

今後の課題としては、電子書籍の導入やデジタルアーカイブの活用など、ICT化に伴う図書の在り方や、読書の意義を検討していく必要性が挙げられます。また、外国にルーツのある児童生徒の読書機会を積極的に取り入れるなど、すべての子どもの読書への参加しやすさを考慮した取り組みの検討が必要となっています。

●関連団体

団体名	活動内容	活動拠点
おはなしぼん	絵本や紙芝居の読み聞かせ	図書館、児童館、小学校、子育て支援センター
グループガブ	絵本や紙芝居の読み聞かせ	図書館、児童館、小学校
コロボックル	絵本や紙芝居の読み聞かせ	図書館、児童館、小学校
らぶつくす	絵本や紙芝居の読み聞かせ	図書館、児童館、小学校、中学校、子育て支援センター、放課後子ども教室
ティンカーベル	英語での絵本の読み聞かせ	図書館
おはなしふわり	絵本や紙芝居の読み聞かせ	図書館
ぐっちっぱー	絵本や紙芝居の読み聞かせと歌	図書館、老人ホーム、老人会

〔取り組みと課題〕

毎年、市立図書館がボランティア養成講座を開催し、ボランティアが活躍できる機会の充実に取り組んでいます。ボランティア団体構成員の高齢化や人手不足が今後の課題です。

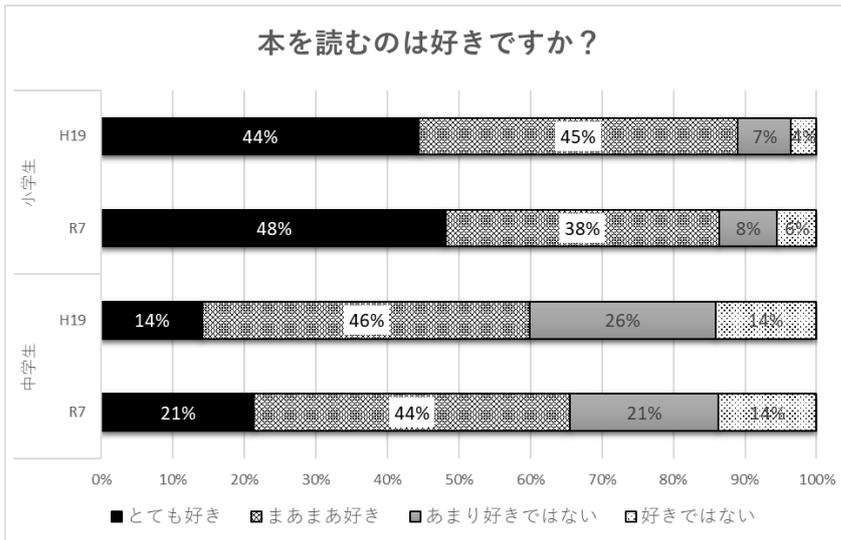
2. 豊明市の子どもの読書活動の状況

子どもの読書活動の状況を把握するために、2025年6月に、市立小学校8校の2・4・6年の児童とその保護者及び市立中学校3校の2年の生徒とその保護者を対象に、アンケート調査を実施しました。

本市の子どもの読書活動の現状や課題について、今回実施したアンケート結果と、前回のアンケート結果を比較し、特徴的なものについて、以下に考察をまとめています。なお、グラフ中の「H19」は2007年度、「R7」は2025年度と読み替えます。

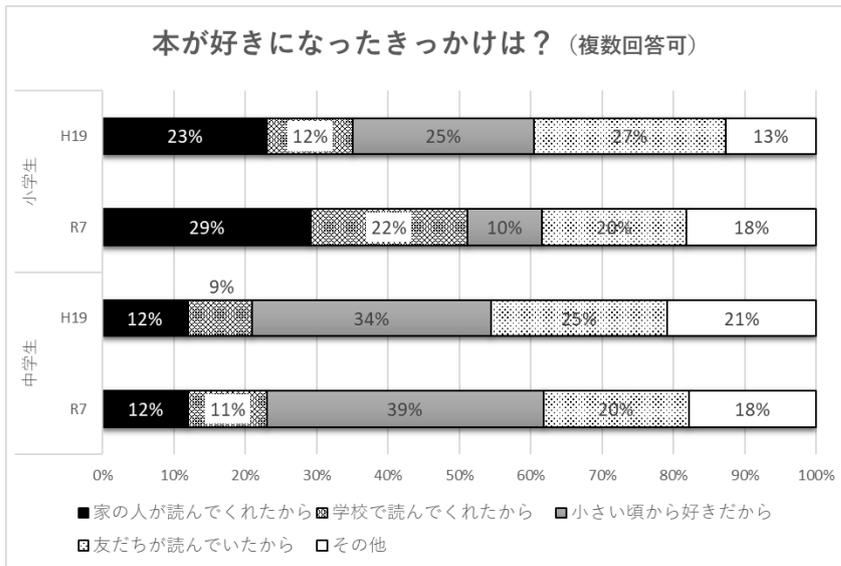
対象者：小学校2年、4年、6年	579名	中学校2年	197名	計	776名
小学校2年、4年、6年、中学校2年の保護者	203名				
(前回調査(2007年度))					
小学校2年、4年、6年	816名	中学校2年	212名	計	1,028名
小学校2年、4年、6年、中学校2年の保護者	904名				

(1)本を好きになるきっかけは、小学生までの段階で、周りから働きかけることが重要である



「本を読むのは好きですか」では、「とても好き」と回答した割合が、小学生、中学生ともに前回調査よりも増加しています。「とても好き」「まあまあ好き」と回答した小学生は86%でしたが、中学生

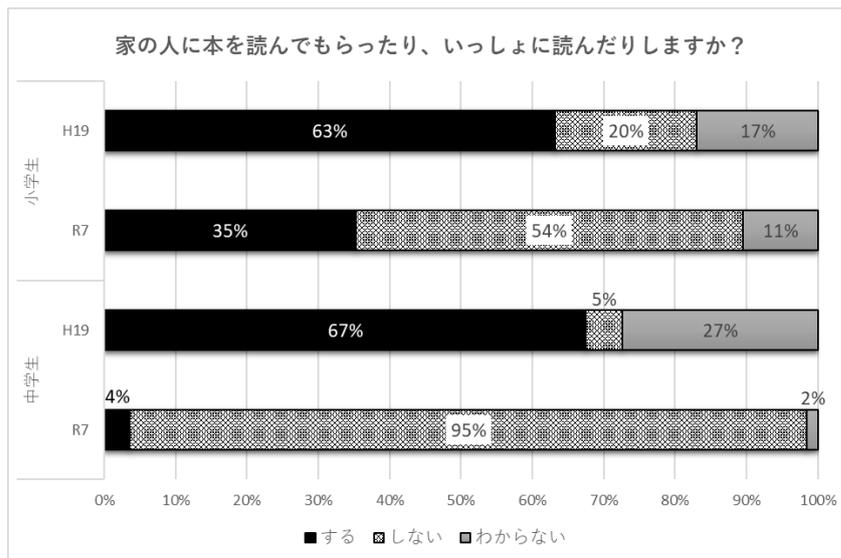
になると65%となり、小学生よりも減少する傾向がみられました。



「本が好きになったきっかけ」は、小学生では「家の人を読んでくれたから」「学校で読んでくれたから」「友だちが読んでいたから」の回答が合計で71%ありました。「その他」の記述の中でも、「本を読ん

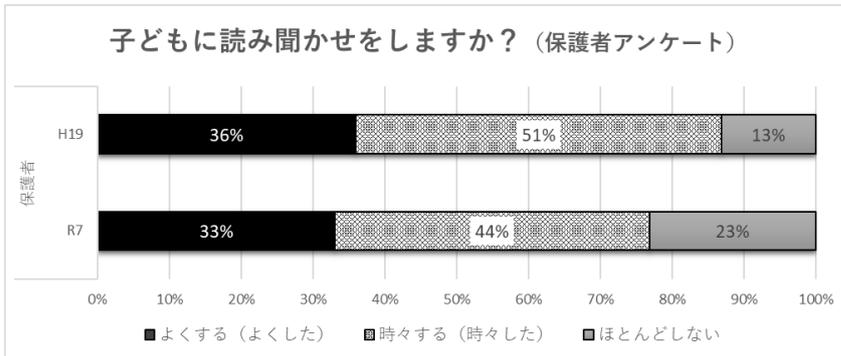
でもらったから」や「本を買ってくれたから」「兄弟が読んでいたから」など、周りからの働きかけがきっかけになっている割合が高いようです。中学生になると「小さいころから好きだったから」の回答の割合が増加しており、小学生までに読書が好きになるきっかけを経験してきたことが要因と推察できます。

(2)家庭での“読み聞かせ”は、保護者(読み手)と子ども(聞き手)で認識の違いがあるが、“読み聞かせ”を大切だと認識している保護者は多い



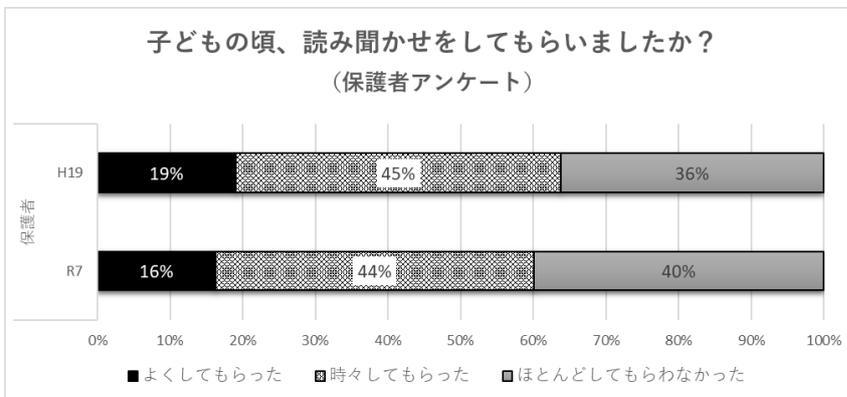
小学生、中学生への「家の人に本を読んでもらったり、いっしょに読んだりしますか」の質問に対して、「しない」と答えた小学生は54%で、中学生は95%でした。

注) H19 は、過去の読み聞かせの経験も含みます。



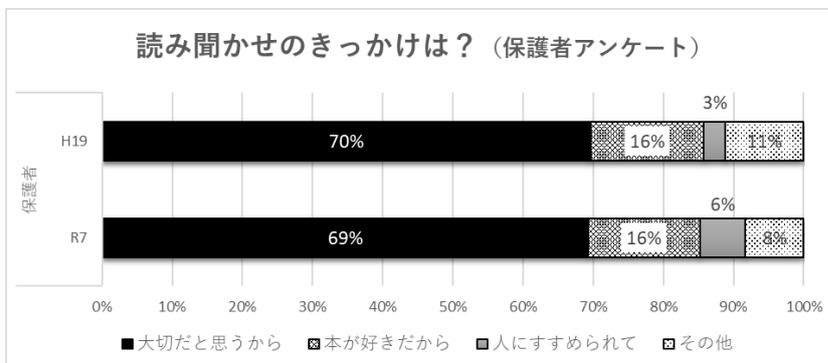
それに対して、保護者へ「子どもに読み聞かせをしますか(しましたか)」の質問では、77%の保護者が読み聞かせをする(した)

と回答しました。このことから、保護者は読み聞かせをしているが、子どもは必ずしもそのように認識していないことが分かります。



また、保護者へ「子どもの頃、読み聞かせをしてもらいましたか」の質問では、「してもらわなかった」と44%の保護者が回答しており、読

み聞かせをあまりしてもらっていないと認識していることが分かりました。このことについて、前述(1)での「本が好きになったきっかけは」の問いに対し、「家の人が読んでくれたから」と答えている数は一定数あるものの、上記の認識の違いには、子ども(聞き手)の年齢や、読み聞かせに興味湧き、記憶に残る内容であったかなど、様々な要因が考えられます。

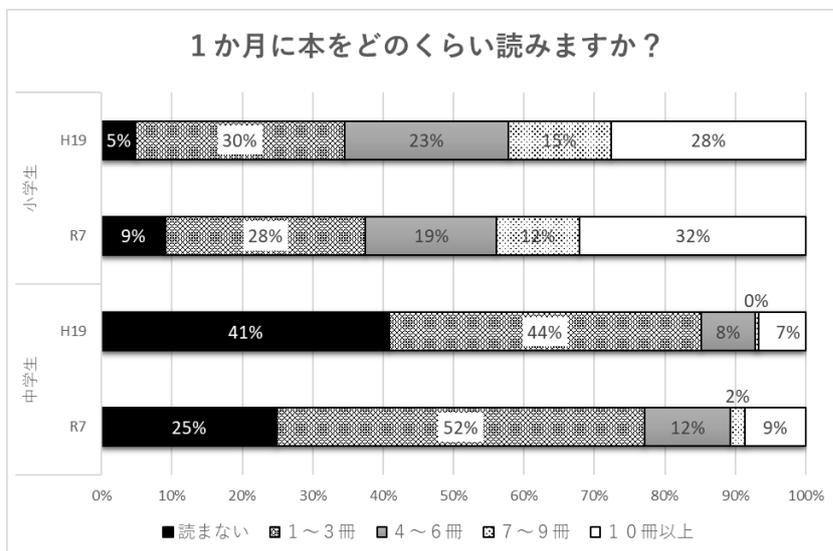


一方で、保護者へ「読み聞かせのきっかけ」を訊ねた質問では、69%の保護者が「大切だと思うから」と回答しており、「読み聞かせ」

の重要性は高く認識されていることが分かります。子どもとのコミュニケーションツールとして継続して読み聞かせを行うことで、心に残る“読み聞かせ”にもなると

考えられます。

(3)不読率は、小学生よりも中学生で高くなっている

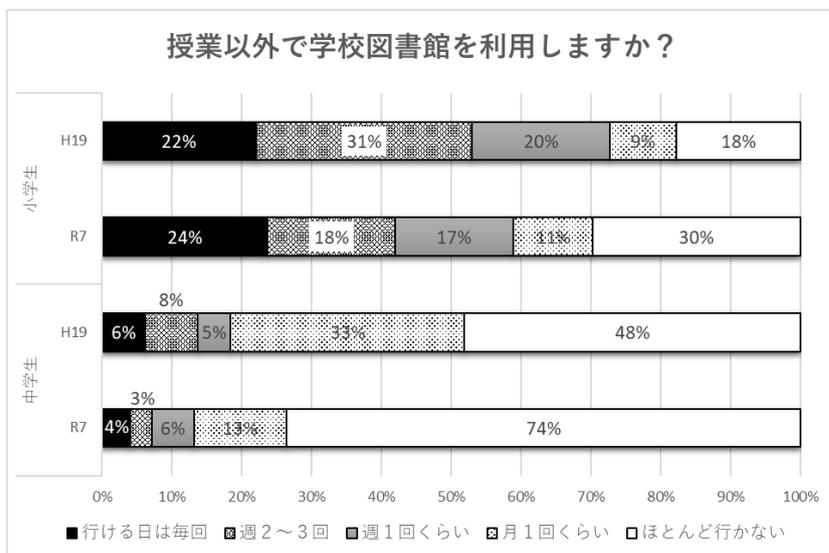


「1か月に本をどのくらい読みますか」では、前回調査に比べて、小学生で「読まない」と回答した、いわゆる不読率が増加しました。その逆に、中学生では不読率は減少する結果となりました。これは中学校において

「朝読書」の取り組みを継続的に行われた成果として表れているものと思われます。しかし、全体としては、小学生よりも中学生のほうが、不読率が増加する傾向にありました。

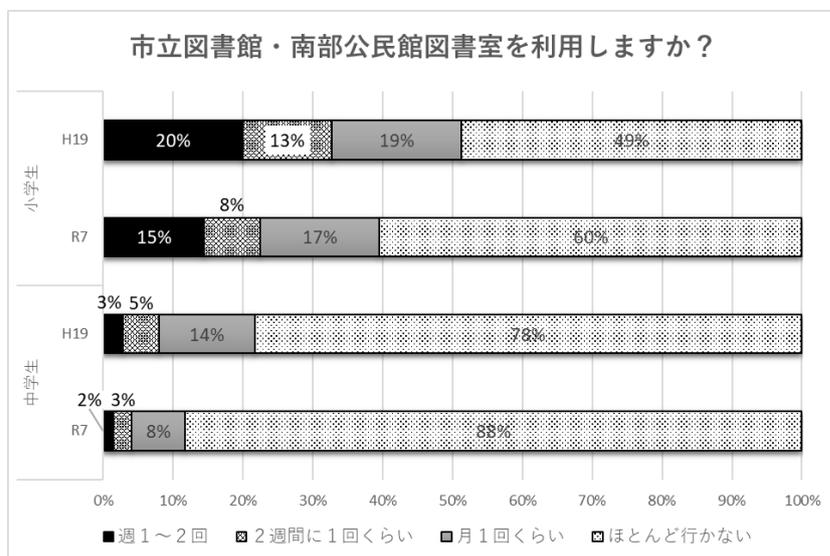
この調査から原因は特定できませんが、社会の ICT 化によるスマートフォン等を利用する子どもが増えているのも要因の一つとして考えられます。

(4)図書館を利用しない子どもが増加している



「授業以外で学校図書館を利用しますか」では、前回調査に比べて、「ほとんど行かない」との回答が、小学生、中学生ともに増加しました。「本がたくさんあれば」や「休み時間に長い時間利用

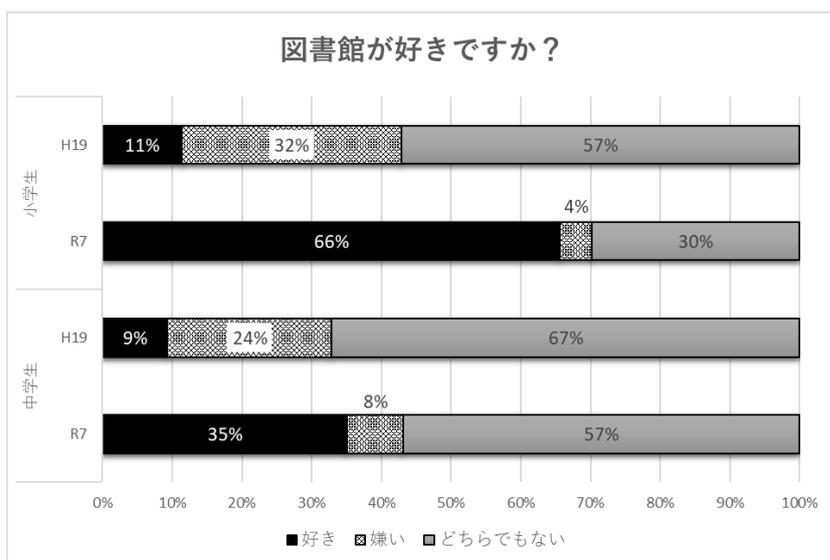
できる」ようになれば、学校図書館を利用したいという小学生の意見が多くありました。



また、「市立図書館・南部公民館図書室を利用しますか」でも、「ほとんど行かない」との回答が、小学生、中学生ともに増加しました。行かない理由としては、「行く時間がない」という回答に続き、「どこにあるのかわ

らない」という回答が多い結果となりました。前回調査の行われた2007(H19)年度は、市内全小学校で図書館施設見学が行われるなど、児童生徒が市立図書館を知る機会がありましたが、2025(R7)年度時点では施設見学を行う小学校が減ったことも要因の一つと考えられます。

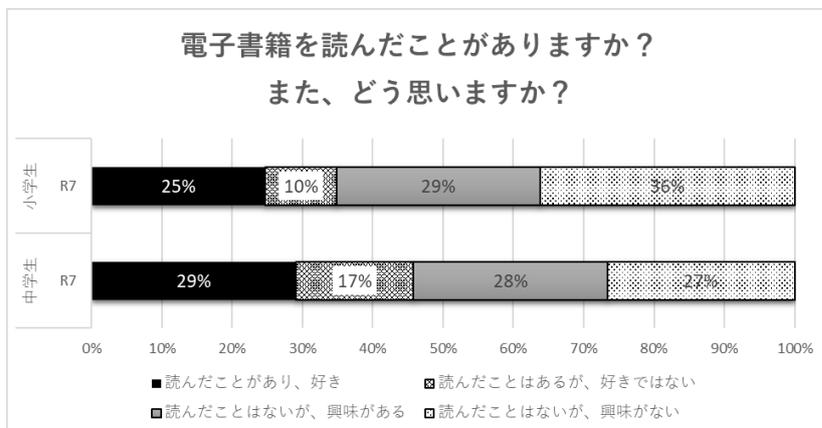
(5) 図書館は嫌いではない



「図書館が好きですか」では、小学生、中学生ともに、前回調査に比べて「好き」と答えた割合が増加し、逆に「嫌い」と答えた割合が減少しました。「どちらでもない」と答えた割合も、小学生で30%、中学生で57%である

ものの、図書館に悪い印象は持っていないということが分かりました。

(6)電子書籍を読んだ子どもの半数以上は好印象を持っている



「電子書籍を読んだことがある」の回答は、小学生で35%、中学生で46%となり、まだ電子書籍を読んだことがない子どものほうが多い結果でした。

また、電子書籍を読んだ経験がある回答のうち、「読んだことがあります、好き」と回答した小学生は71%、中学生で63%と、「読んだことはあるが、好きではない」と回答した割合を上回りました。

「電子書籍を読んだことがない」回答の中では、電子書籍の興味の有り無しは、ほぼ半数に分かれる結果となりました。

このことから、現状で電子書籍はまだ全体に浸透しているとは言えず、今後、デジタル社会の動向を見極めていく必要があることが分かりました。

第3章 計画の基本方針

1. 基本方針

国の「第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」策定に向けて行われた、子どもの読書活動の推進に関する有識者会議では、子どもが読書を好きになり、自主的に読書をするようになるためには、乳幼児期からの発達段階に応じた取り組みが行われることが重要であることが述べられています。

発達段階の乳幼児期(おおむね6歳頃まで)の子どもは、周りの大人からの言葉かけや、絵本や物語を読んでもらうことを通じて、言葉を次第に獲得していきます。また、大人が子どもの理解や喜びに共感し、共有することで、言葉や物語に興味を示すようになり、様々な体験を通じてイメージを豊かにしながら、絵本や物語の世界を楽しむようになっていきます。

小学生低学年では、本の読み聞かせを聞くだけでなく、一人で本を読もうとするようになり、徐々に語彙の量が増え、文字で表された場面や情景をイメージできるようになっていきます。このことから、発達段階初期の乳幼児期において、周りの大人からの言葉かけは、その後の読解力や想像力、思考力、表現力等を養うことに大きな影響を与える重要なきっかけとなっていることが想定されます。

前章での現状・課題の分析を踏まえ、本市として、“読み聞かせ”の活動を計画の中心に据え、発達段階の第一歩である乳幼児期の子どもへの読み聞かせを始めとして、その後の子どもの読書活動につながる手助けを行います。

以下のとおり「基本理念」・「基本目標」を定め、様々な取り組みの中で、子どもの読書への関心を高め、読書習慣を形成し、中長期的に不読率の高い中高生の読書離れを低減することを目指し、読書に親しむ環境づくりを行っていきます。

2. 基本理念

本市では、読書活動のきっかけとなる発達段階初期の乳幼児期の“読み聞かせ”を重点的に取り組み、子どもが本に親しみその後の読書活動を続けていける環境を作ります。子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く明るく歩めるよう、次の基本理念を掲げます。

**“読み聞かせ”から、
子どもの心を豊かに育み、明るい未来へつなぐ**

3. 基本目標

基本理念を実現するため、関係機関への調査やアンケート結果をもとに、次の2項目を基本目標としました。デジタル社会の過渡期中、読書の意義や本の在り方を検討し、子どもが生涯にわたり自主的に本を読むようになるために、家庭における環境づくり、地域・学校での読書活動の推進、関係機関の連携・協力体制の整備を目指します。

《基本目標 1》 家庭、地域、学校等における子どもの読書活動の推進

子どもの発達段階に応じた、それぞれの立場の役割の中で、読書活動につながる施策を行っていきます。

《基本目標 2》 関係機関との連携・協力体制の整備

市全体で取り組むために、関係機関と連携しながら子どもの読書活動の支援を行っていきます。

第4章 子ども読書活動推進のための施策

《基本目標1》 家庭、地域、学校等における子どもの読書活動の推進

(1)家庭における子どもの読書活動の推進

家庭における読書は、本を通じた保護者からの語りかけや、子どもと一緒に本を読みながら感想を話し合ったりする時間を持つことで、家族の絆が深まっていきます。読み聞かせや読書を一緒にして、家族が楽しい時間を共有することは、子どもが読書に親しむ上での基盤となり、重要な役割となっています。

具体的な取り組み

ア マタニティ読み聞かせの実施

妊婦及びそのマタニティ期の家族を対象として、絵本の読み聞かせを体験する機会を設けます。読み聞かせの楽しさを体験してもらい、お腹の子どもに絵本を読んで語りかけることで、親子の絆を深めてもらうお手伝いをします。

イ ブックスタート事業の推進

3か月児健康診査の機会に、読み聞かせボランティアによる読み聞かせと絵本の配布を実施します。絵本の紹介リーフレットの配布など、読み聞かせの意義や重要性を伝える事業の推進をしていきます。

また、市立図書館の利用案内や親子で楽しめる「おはなし会」やイベント等の案内も一緒に配布し、市立図書館の周知及び利用を促します。

ウ 家庭読書の支援、読み聞かせの啓発・推進

家庭での読書及び読み聞かせの機会を増やすために、年齢に応じた本の情報を提供し、家庭読書を支援していきます。また、「おはなし会」の開催など、読み聞かせの機会を作り、本に親しみやすい環境を整えていきます。

(2)地域における子どもの読書活動の推進

児童館や子育て支援センター、児童クラブ、放課後子ども教室など子どもたちが集まる施設や場所では、家庭や保育園や学校等の外で本に出会い、読書に親しむことができる、子どもたちにとって身近な場所となっています。このような地域の拠点でも、読書ができる環境を整備していく必要があります。

具体的な取り組み

ア 地域における読み聞かせボランティアの派遣先拡充、読み聞かせの機会の充実

子どもが集まる施設や場所で、定期的な読み聞かせを実施します。現在、実施している児童館や子育て支援センター、児童クラブ、放課後子ども教室などでの定期的な読み聞かせボランティアの派遣は継続して行い、更に読み聞かせボランティアが活躍できる派遣先を拡充することで、更なる読み聞かせの機会を充実させていきます。

イ 児童館等の読書環境の充実

児童館や子育て支援センター等で、子どもが読書できる環境を充実させていきます。市立図書館と連携し、団体貸出を活用して図書を充実させたり、コラボイベントなどを検討したりして、子どもが本に親しむ環境づくりを支援していきます。



(3) 保育園等における子どもの読書活動の推進

保育園や幼稚園等は、発達段階初期である乳幼児期の“読み聞かせ”の重要性を中心に据える本計画にとって、とても重要な役割を担っています。乳幼児が絵本や物語の世界に興味を示し、楽しめるよう読み聞かせを効果的に実施し、発達段階に応じた子どもの心が豊かに育まれる読書活動を推進することが重要となります。

具体的な取り組み

ア 保育園等における読み聞かせの機会の充実

保育士、幼稚園教諭などによる紙芝居や絵本の読み聞かせを行っています。子どもが絵本や物語に触れる機会の創出をする「量」と、選書や読み方の工夫などの「質」の両面からアプローチを行い、子どもの心が豊かに育まれるよう、言語能力、想像力、思考力、表現力といった総合的な発達を促します。また、日頃の子どもの反応や様子などを保護者と情報共有し、子どもが絵本等により親しめるよう、家庭での読み聞かせの推進につなげます。

イ 大型絵本や紙芝居等を用いた読書環境の充実

保育園で購入するもののほか、市立図書館の団体貸出を積極的に活用し、大型絵本や紙芝居等を用いた読書の機会を増やしていきます。

ウ 読み聞かせボランティアや他機関との連携・協力

読み聞かせボランティアによる読み聞かせを取り入れ、多様な読み聞かせの機会を創出します。



(4)学校等における子どもの読書活動の推進

子どもが生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を形成していく上で、学校はかけがえのない大きな役割を担っています。また、学校図書館は、児童生徒の読書活動の場である「読書センター」の機能と、学習活動を支援する「学習センター」の機能と、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする「情報センター」の機能を有しています。社会のデジタル化やGIGAスクール構想により、1人1台端末を持って学習活動を行うようになり、情報通信技術(ICT)を取り入れた効果的な情報資源の活用方法の検討を行う必要があります。

具体的な取り組み

ア 学校における読み聞かせの機会の充実

学校における読み聞かせは、本への興味を持つこと以外に、人の話を集中して聞く、聞いた言葉から物事を想像する、その場に集まった人と交流するなど、子どもの成長に影響を与えるため、より一層、読み聞かせの機会の充実を図っていきます。

イ 多様な子どもたちの読書機会の確保

学校図書館では、外国籍児童生徒の読書機会を提供するために、やさしい日本語や外国語児童図書を整備等を推進していきます。また、一時的に学級になじめない児童生徒の居場所となり得ることを考慮し、多様な背景を持つ児童生徒が安心して読書や学習に取り組める場となることを目指します。

ウ デジタル社会に対応した読書環境の検討・整備

1人1台端末の活用が定着し、課題や目的に応じて、インターネット等を用い、様々な情報を主体的に収集・整理・分析を行う活用が進んでいます。こうした変化の中で、子どもたちが、学校図書館、図書館資料、読書活動をどのように捉えるかを分析し、情報活用能力の育成を促すための、図書の在り方について検討していきます。

エ 学校図書館を活用した調べ学習の充実

調べ学習は、子どもが主体的に情報を集め、分析し、問題を解決する力を身につける大切な教育課程のひとつであり、すべての教科において、調べる手段に図書は欠かせない存在です。学校司書や学校図書館司書教諭を中心に、学校図書館を活用した調べ学習用の資料収集や読書指導、市立図書館の団体貸出を活用した資料提供などを積極的に行います。また、市立図書館と協力して、端末を用いた電子書籍の可能性も含め、研究していきます。

オ 児童生徒の読書習慣の促進

読書活動は人生を豊かにする活動で、単発的なものではなく習慣化していくことが望まれます。学校図書館で児童生徒が身近に読書ができる環境を整えることで読書習慣を促し、貸出冊数の増加を目指します。そのために、図書館資料の充実や図書館まつり等のイベントを企画し、読書への意識向上を図ります。



(5)市立図書館における子どもの読書活動の推進

市立図書館は、地域の誰でも利用できる図書館として、子どもの読書活動の推進における中心的な役割を果たすことが重要となります。乳幼児から児童・青少年に至るまで発達段階に応じたサービスの提供や、障がい児や日本語を母語としない子どもなど、誰一人取り残さない読書活動の機会を創出していくことが求められています。子どもたちにとって本が身近な存在になり、将来に渡って主体的に読書活動を行えるような環境づくりに取り組んでいきます。

具体的な取り組み

ア おはなし会等の読み聞かせの機会の充実

図書館を訪れた子どもや親子が、読み聞かせの機会に触れられるよう、ボランティアの協力を得て、おはなし会を実施します。また、市立図書館が主体となって、他部署や他団体との連携を図り、読み聞かせの機会を創出していきます。

イ 中高生向き図書の実、読書活動の促進

思春期を迎える子どもは、読む本も児童書から一般書へ移行する時期であるため、年齢に合わせた図書を収集する必要があります。中高生向き図書の充実を図るとともに、新刊本の情報発信や、市立図書館のヤングアダルトコーナーにおける展示の工夫を行い、中高生の読書活動を促します。

ウ デジタル社会に対応した読書環境の整備

情報通信技術(ICT)を積極的に活用しつつ、より便利で使いやすい図書館の空間づくりを行います。また、図書館利用者のニーズ調査を行い、電子書籍の貸出しについて検討します。また、子どもが端末で利用できるデジタルアーカイブの充実に向けて、学校向けの副読本のデジタル化等の検討をします。

エ 読書活動の促進に関する情報発信の充実

デジタル社会における SNS は、情報収集等において不可欠なインフラとなっています。SNS を活用し、おすすめ本や季節の行事やイベントなどの情報を発信することで、子育て中の保護者や中高生に向けて、必要な情報を効果的に届ける取り組みを行っていきます。

オ 南部公民館図書室の充実と利用促進

南部公民館図書室の絵本、中高生向き図書の充実を図り、駅前の利用しやすい立地を活用し、利用促進に努めていきます。

カ 読み聞かせボランティアの育成、活動支援

読み聞かせを促進していくために、読み聞かせボランティアの養成講座等を開催し、ボランティアの育成に力を入れていきます。また、講座修了後にはスモールステップから読み聞かせの実践ができる場を設けるなど、地域で活躍する読み聞かせボランティアが定着していくための仕組みづくりを行っていきます。そして、新たな読み聞かせニーズに橋渡しして、「読み聞かせの街“豊明”」をさらに促進させていきます。

キ 団体貸出の利用促進

子どもの読書環境を備える各施設や団体に対して、それぞれの目的やニーズを丁寧に聞き取り、要望に応じて、必要な資料を迅速かつ的確に提供できる体制を整えます。

ク 読書バリアフリーに配慮した図書の収集と環境整備

障がいのある子どもや日本語指導を必要とする子どもなど、多様な子ども一人ひとりの可能性を引き出すための読書環境を整備します。

《基本目標 2》 関係機関との連携・協力体制の整備

子どもの読書活動を推進していくためには、家庭、地域、学校が中心となり、社会全体で共に取り組む必要があります。そのために、関係機関が相互に情報や意見交換をすることができ、いつでも連携ができる体制を整える必要があります。

(1)市立図書館と学校図書館との連携

市立図書館は、児童生徒の読書習慣を身につけるために、学校司書から意見や要望を聞き、それに応えるために協力をする必要があります。

具体的な取り組み

ア 市立図書館と学校司書との連絡協議会の開催

市立図書館が主体となって、学校司書との連絡協議会を開催します。また、デジタル社会に対応した読書環境の整備に向けても検討を重ねていき、双方で連携できることを模索していきます。

イ 学校図書館の団体貸出の利用促進

効果的な調べ学習や図書館まつり等を充実させるために、学校のニーズに応じたレファレンスや図書の提案による団体貸出の利用を促進し、支援していきます。



(2)子育て支援機関との連携

子どもが絵本の楽しさに触れ、豊かな感情を育むため、市立図書館は、地域の各所にある子育て支援機関と連携して、読み聞かせの機会を増やします。

具体的な取り組み

ア 市立図書館による読み聞かせボランティアの派遣

市立図書館は、読み聞かせの機会を創出するため、子育て支援機関に読み聞かせボランティアの派遣を行います。

(3)読み聞かせボランティア団体等との連携

市立図書館は、読み聞かせを行うボランティアが活動しやすいように、学びの機会や活動場所につなげるなどの支援を行い、読み聞かせボランティア団体等との連携を図っていきます。

具体的な取り組み

ア 市立図書館による読み聞かせボランティア団体等の継続的な育成

ボランティア団体の育成を目的に、読み聞かせのスキル習得のための講座を毎年開催します。また、学んだスキルを実践できる場の提供を行います。



【参考資料】

(資料) 「豊明市子ども読書活動推進計画」アンケート

1. アンケートの概要

このアンケートは、本市が2026年度から2030年度までの5か年計画である「豊明市子ども読書活動推進計画」を策定するために実施しました。

アンケート項目については、前回の策定と比較するために、2007年度に実施したアンケートとほぼ同項目としています。

①調査対象者

(1)児童・生徒

市立小学校2・4・6年生

市立中学校2年生

(2)対象となった児童・生徒の保護者

②調査時期

2025年6月17日から27日(10日間)

③実施方法

小・中学校を通じて対象者にオンラインアンケート回答を依頼

(あいち電子申請・届出システムによる)

④回答数

(1)児童・生徒

小学生 579人

中学生 197人

(2)保護者 203人

2. アンケートの見方

①図表は、2007年度アンケート結果と2025年度アンケート結果を比較したものです。今回のアンケートにて追加した項目以外は、上段が2007年度、下段が2025年度結果となっています。

②グラフ中の「H19」は2007年度、「R7」は2025年度と読み替えます。

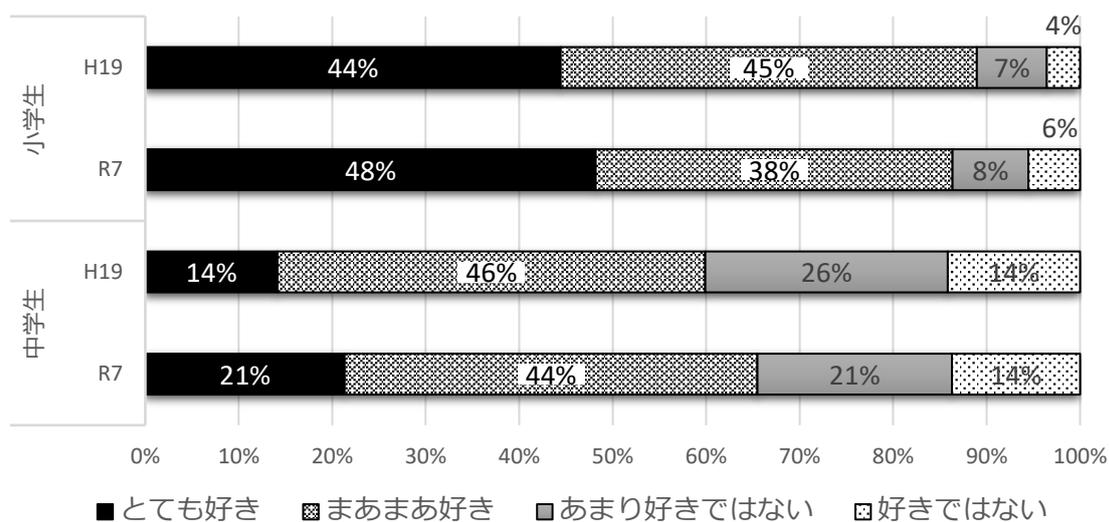
③図表は、原則回答者の構成比(百分率)で表現されており、複数選択可のものに関しては、回答数の構成比となっています。

④児童・生徒アンケート 問5「あなたは小学生ですか？中学生ですか？」は省略しています。

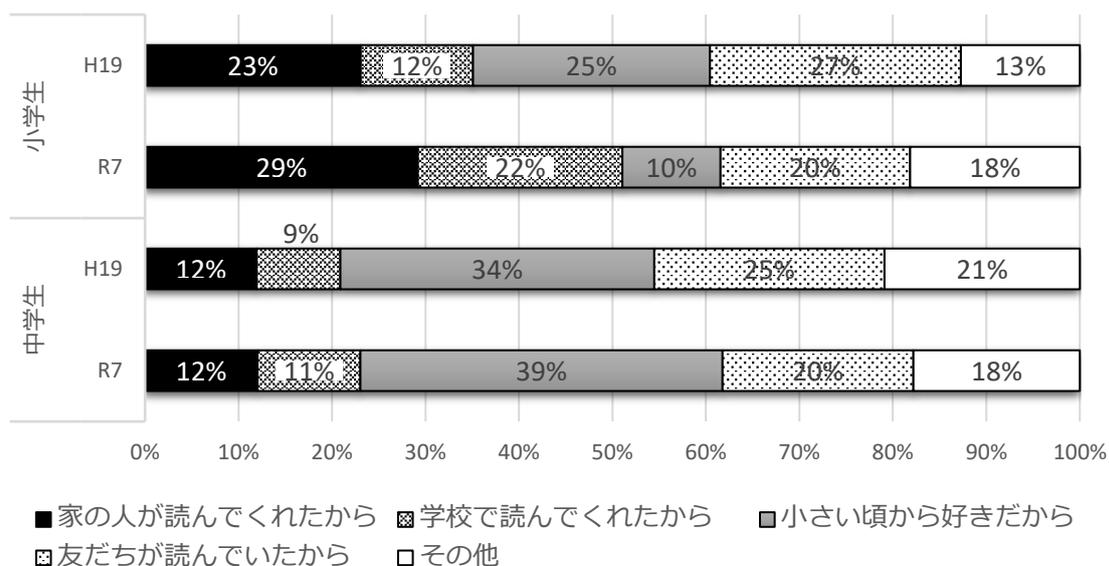
3. 集計結果

(1) 児童・生徒アンケート 集計結果

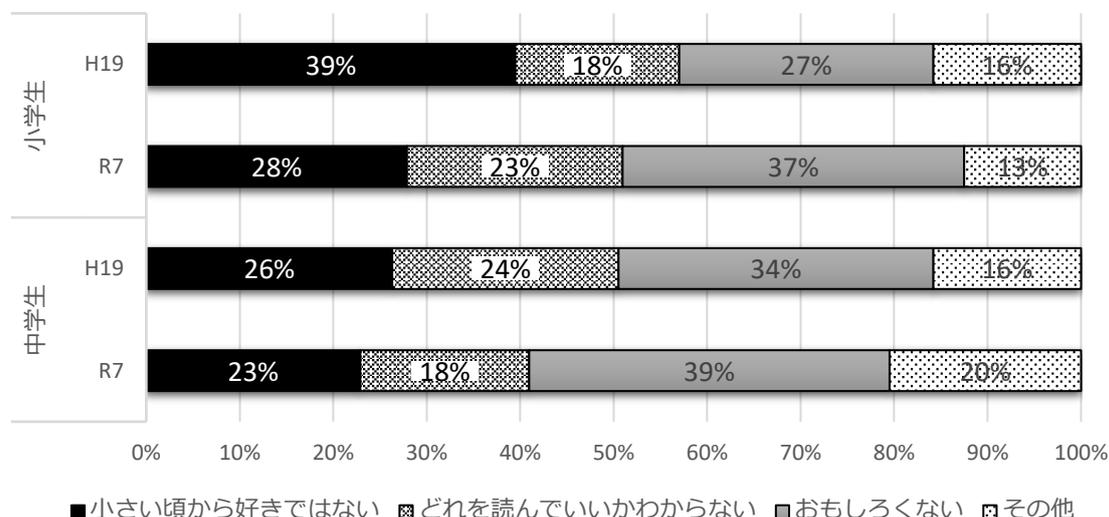
問1 本を読むのが好きですか？



問1-2 問1で「とても好き」「まあまあ好き」を選んだ人のみ
本が好きになったきっかけは？(複数選択可)

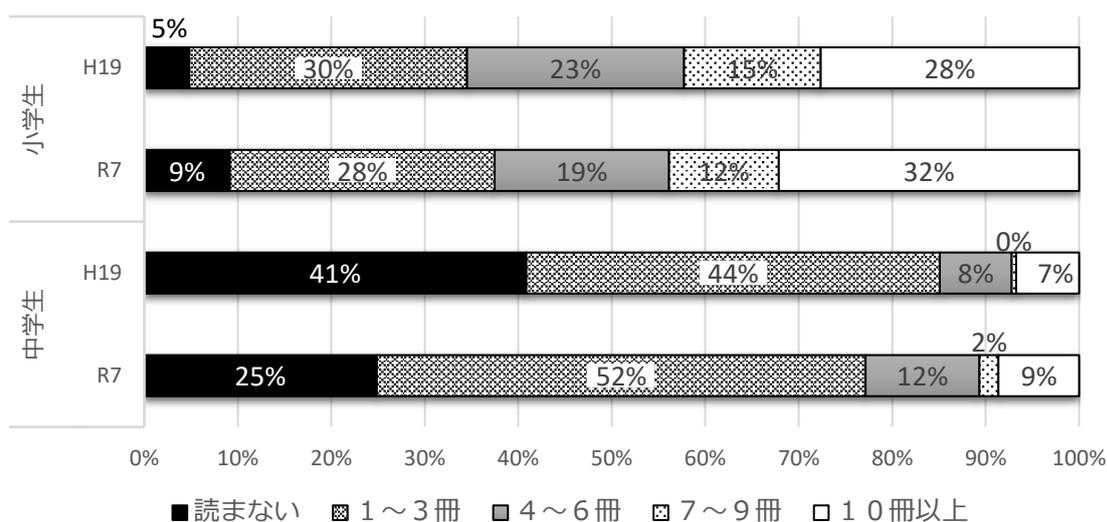


問1-3 問1で「あまり好きではない」「好きではない」を選んだ人のみ
好きでない理由は？(複数選択可)



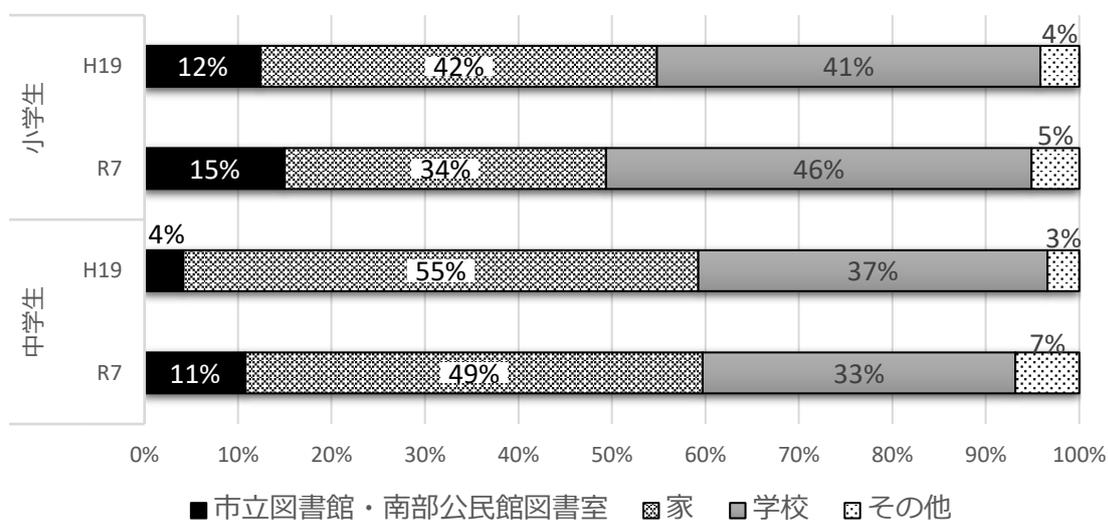
◎小学生は86%の児童が本を好きと回答しているが、中学生になると65%に減少しています。特に「とても好き」と回答する割合が非常に少なくなっています。本を好きになったきっかけは「小さい頃から好きだから」が最も多く、幼少期から本に触れる環境があったことが推察されます。好きでない理由は、小・中学生ともに「おもしろくない」が最も多くなっています。

問2 1か月に本をどのくらい読みますか？



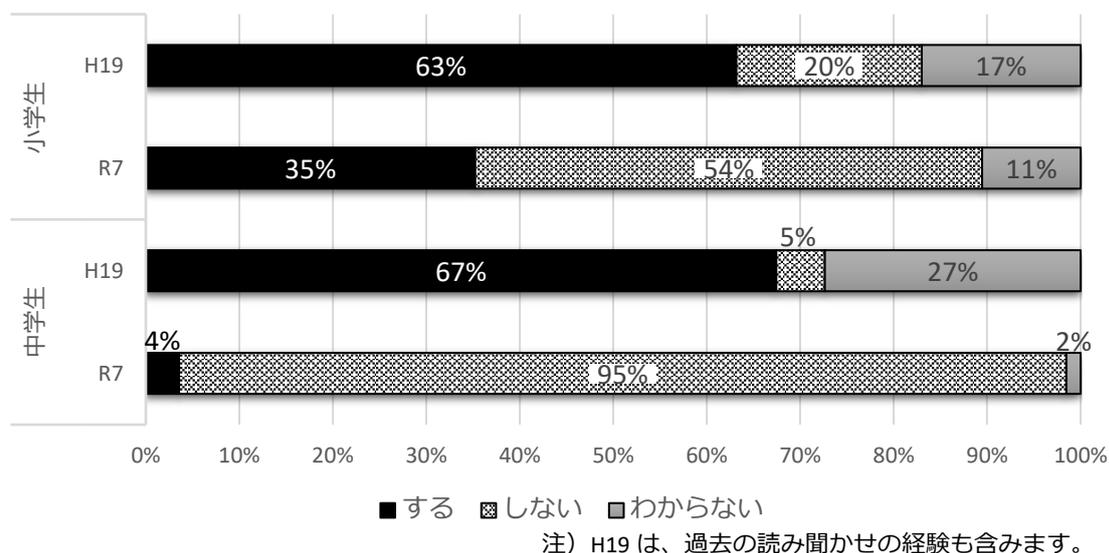
◎小学生は91%の児童が月に1冊以上読んでいますが、中学生になると75%になります。しかし、前回調査と比較すると本を読む中学生が増加しています。

問3 どこにある本を読みますか？(複数選択可)



◎小学生は学校の本を読むことが最も多く、中学生は家で購入する本を最も読んでいることがわかりました。

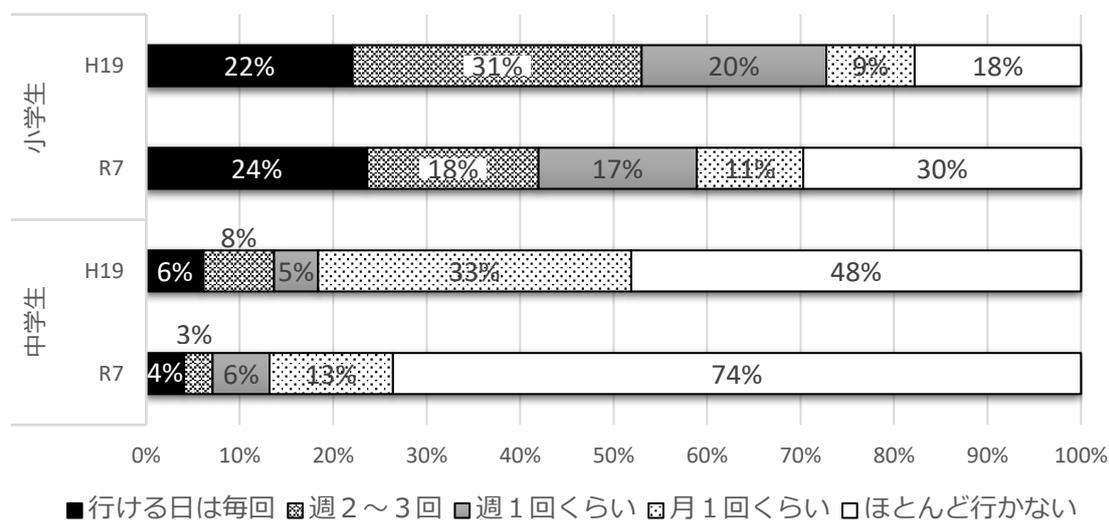
問4 家の人に本を読んでもらったり、いっしょに読んだりしますか？



◎小学生は2007年度と比較して30%近く減少しており、中学生については63%も減少しています。

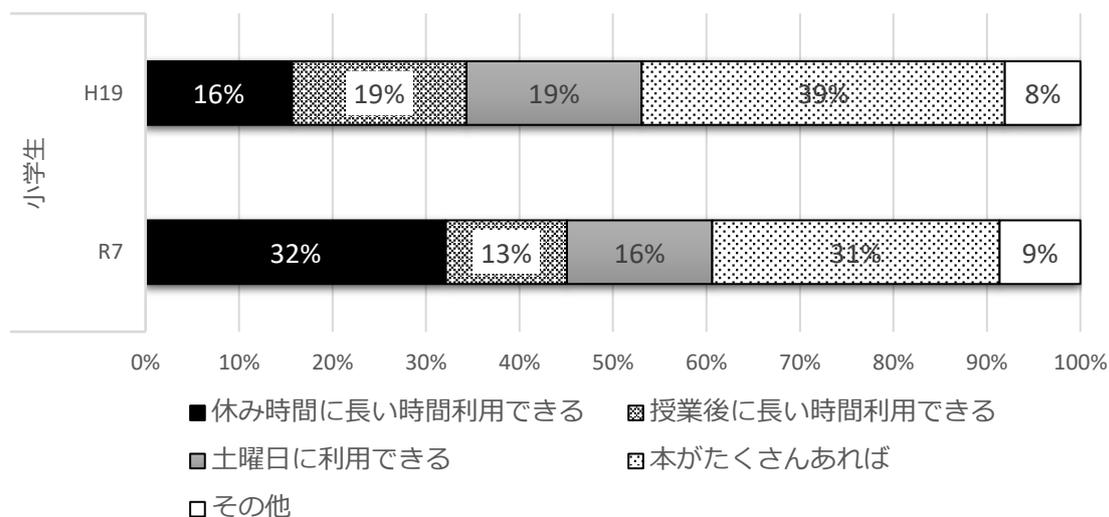
問5 あなたは小学生ですか？中学生ですか？(省略)

問6 授業以外で学校図書館を利用しますか？



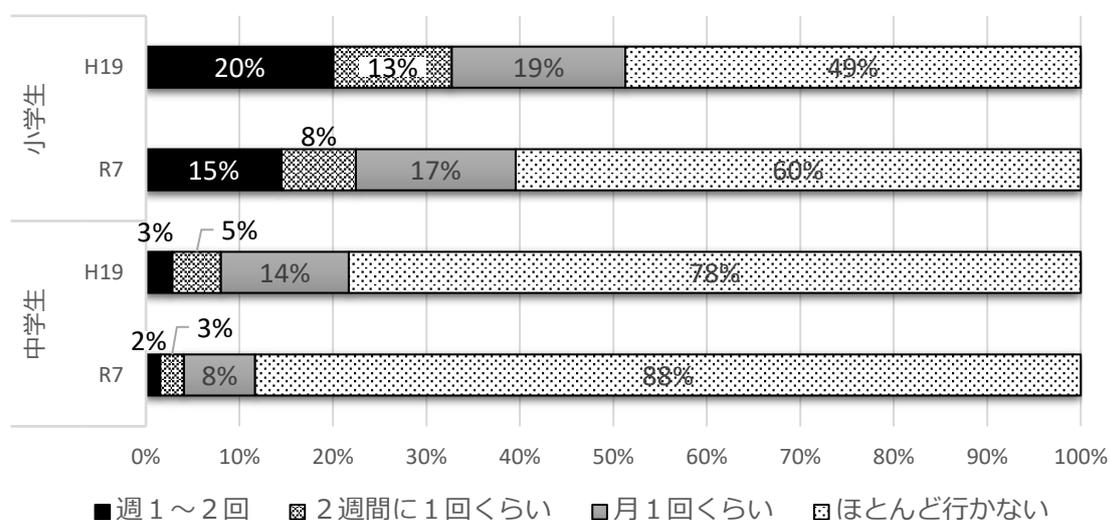
◎小学生は、70%の児童が月1回以上学校図書館を利用していることがわかりました。中学生は、74%の生徒がほとんど利用していないという結果になりました。

問6-2 小学生のみ 学校図書館がどうなればもっと利用しますか？

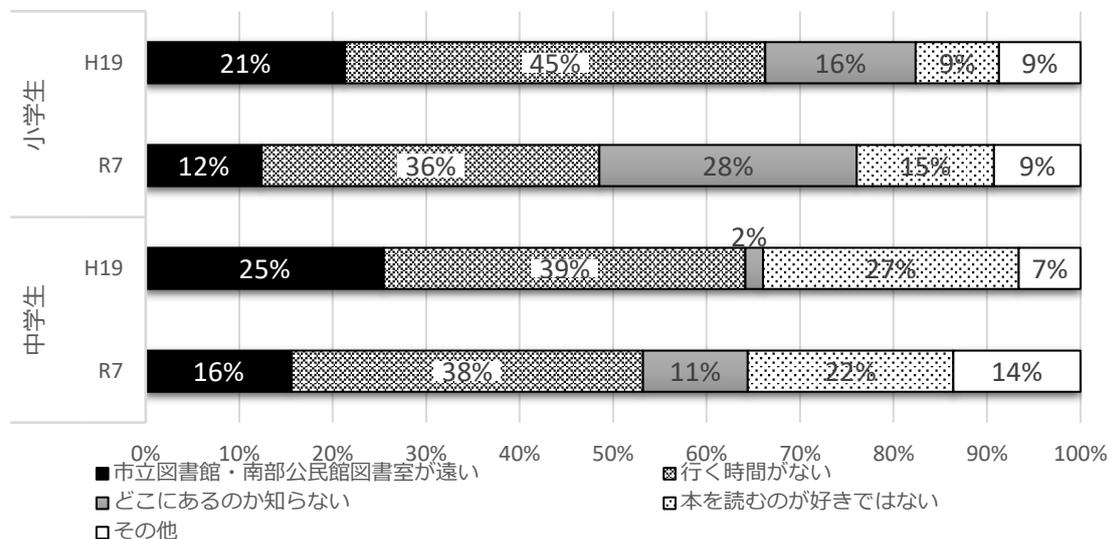


◎「本がたくさんあれば」と回答する児童は引き続き多いですが、「休み時間に長い時間利用できる」ことを望む児童が最も多く32%を占めています。

問7 市立図書館・南部公民館図書室を利用しますか？

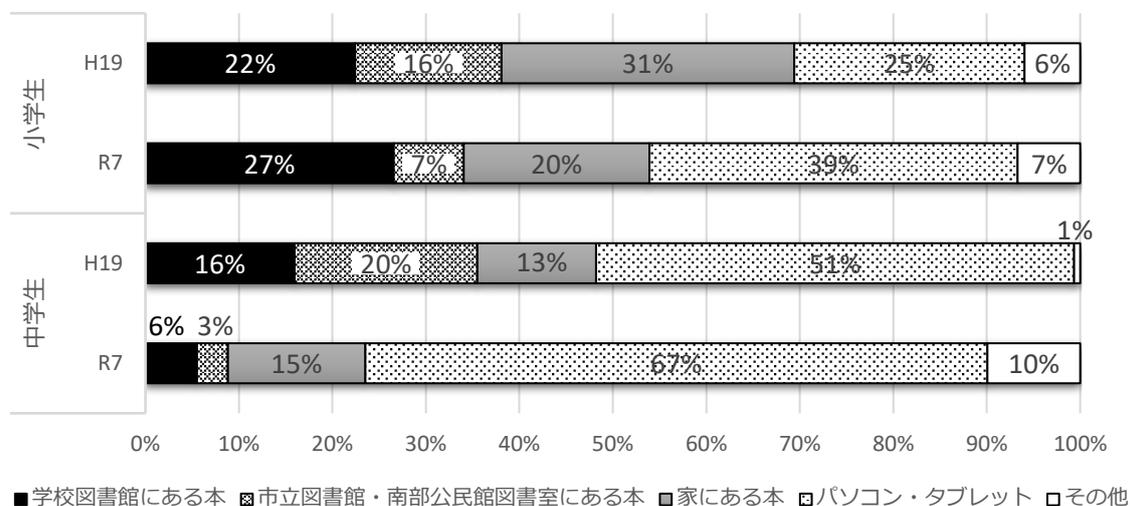


問7-2 問7で「ほとんど行かない」を選んだ人のみ ほとんど行かない理由は？(複数選択可)



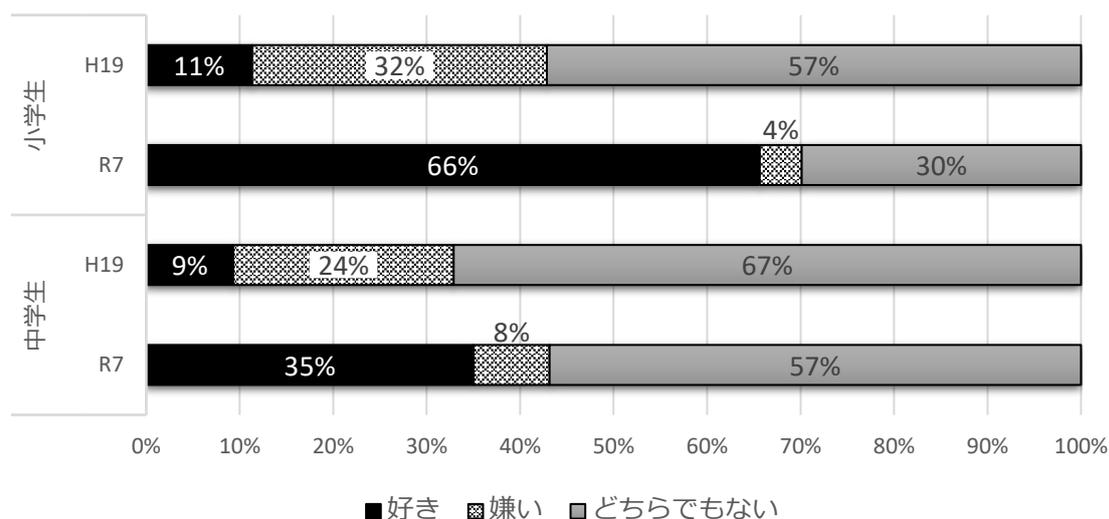
◎小学生は60%の児童が利用しておらず、中学生は88%の生徒が市立図書館・南部公民館図書室を利用していないことがわかりました。また、その理由として、小・中学生ともに「行く時間がない」と回答している人が最も多いという結果になりました。

問8 調べるときは何を利用しますか？(複数選択可)

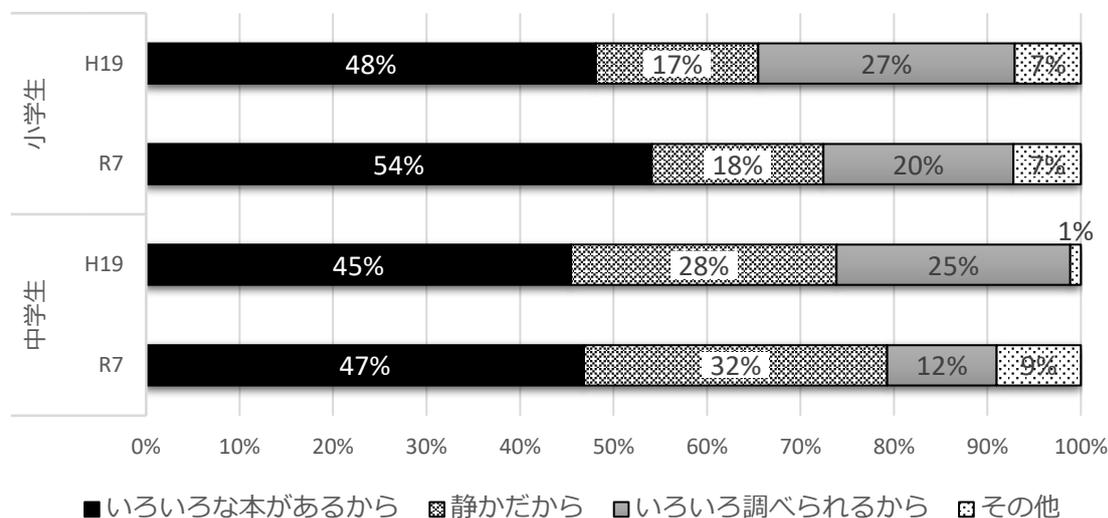


◎前回調査では小学生69%、中学生49%が本を利用して調べものをしていたという結果でした。今回の調査では小学生54%、中学生24%に減少しています。かわりに「パソコン・タブレット」と回答した小学生は39%、中学生は67%と増加していることがわかりました。学校にタブレットが導入された影響が強く出ていると思われます。

問9 図書館が好きですか？

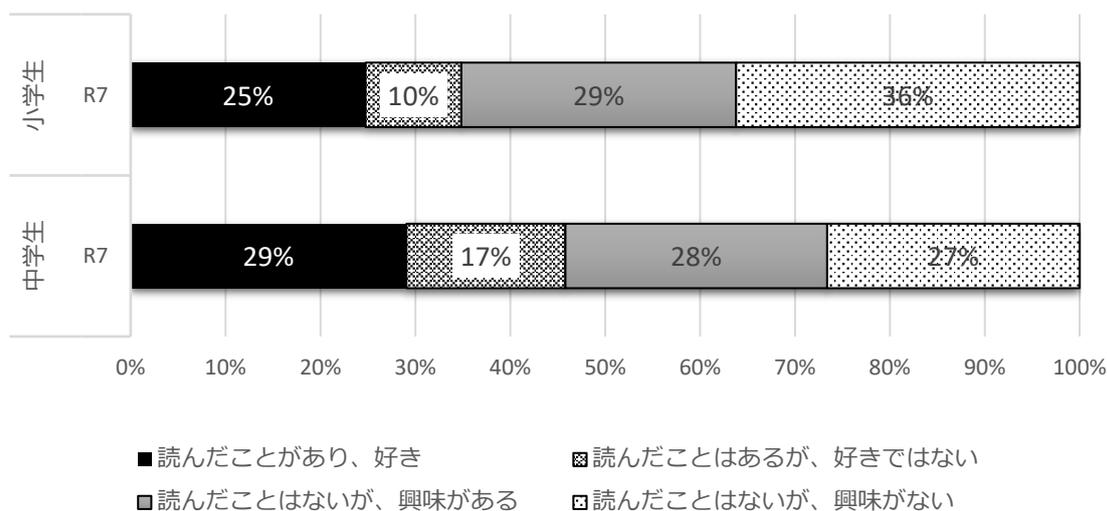


問9-2 問9で「好き」と答えた人のみ
好きと答えた理由は？(複数選択可)



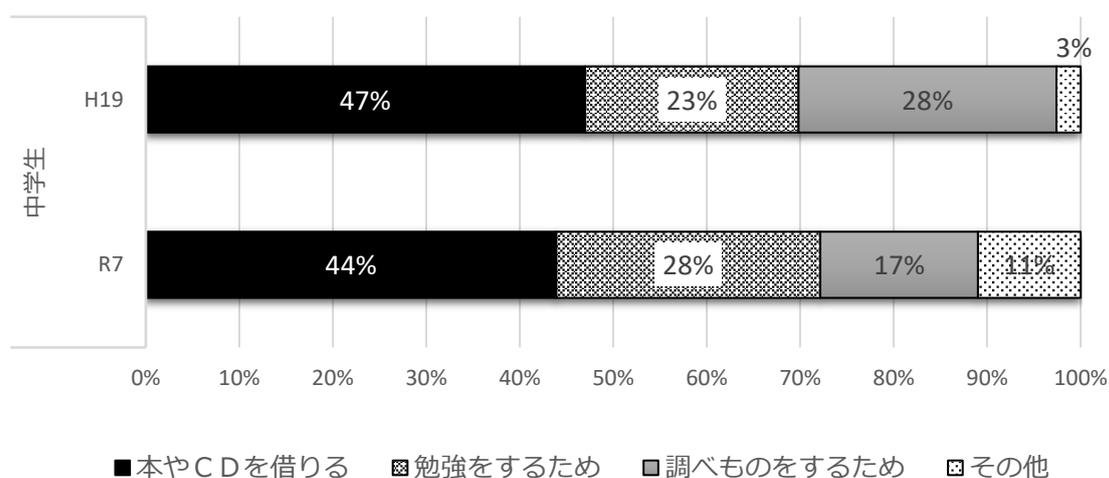
◎図書館が「好き」と答えた小学生は66%、中学生は35%という結果になりました。特に中学生においては「どちらでもない」という回答も多いですが、「嫌い」の回答は小・中学生ともに10%未満でした。多様な本があることに加え、静かな環境にも需要があることがわかりました。

問10 電子書籍を読んだことがありますか？また、どう思いますか？



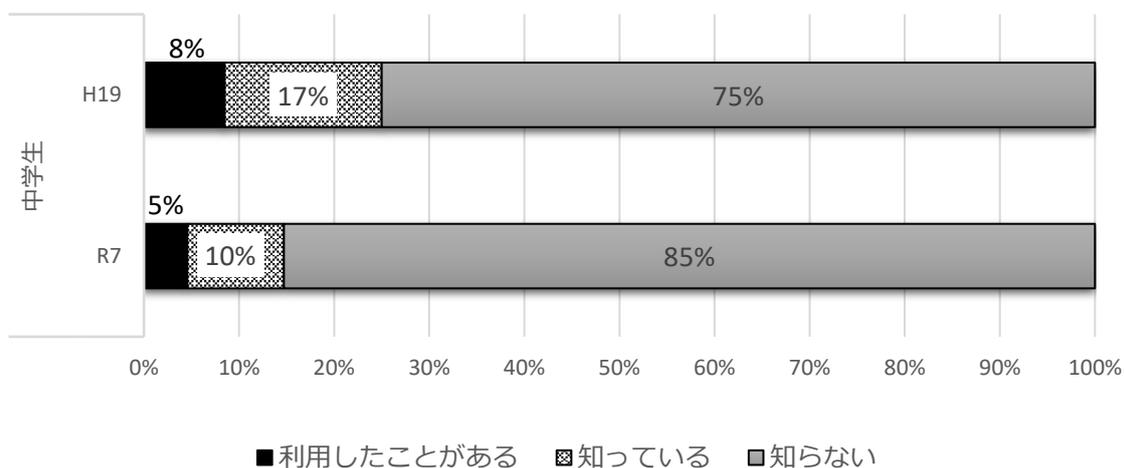
◎50%以上の小・中学生が「好き」「興味がある」と答えている一方、「嫌い」「興味がない」と考えている人も多いことがわかる結果となりました。

問11 中学生のみ 図書館の利用目的は？



◎「本やCDを借りる」ことが最も多い利用目的であることに変わりはありませんが、「調べものをするため」と回答した生徒の割合は減少しています。

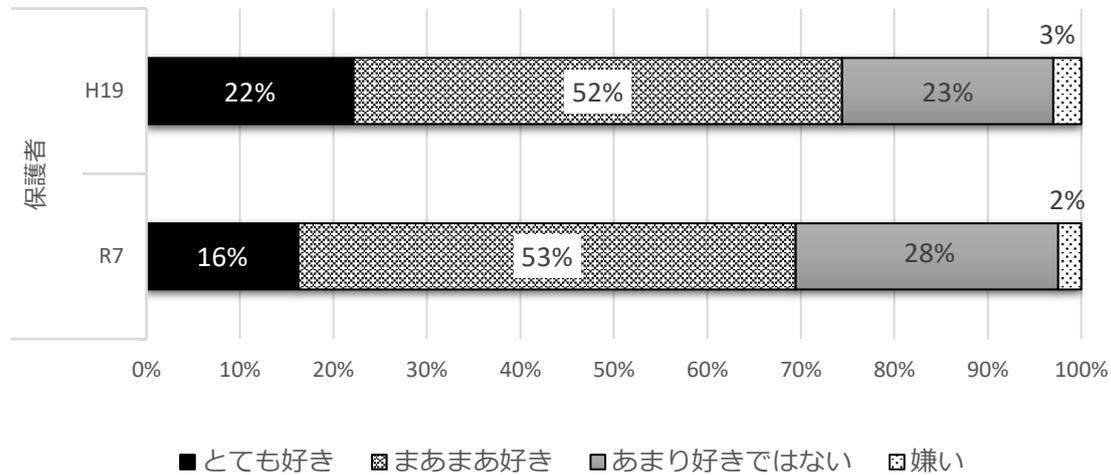
問12 ティーンズコーナーを知っていますか？



◎ティーンズコーナー(YAコーナー)を「知らない」と答えた生徒が85%を占めています。前回調査よりも「知らない」と回答する生徒が10%増加しています。

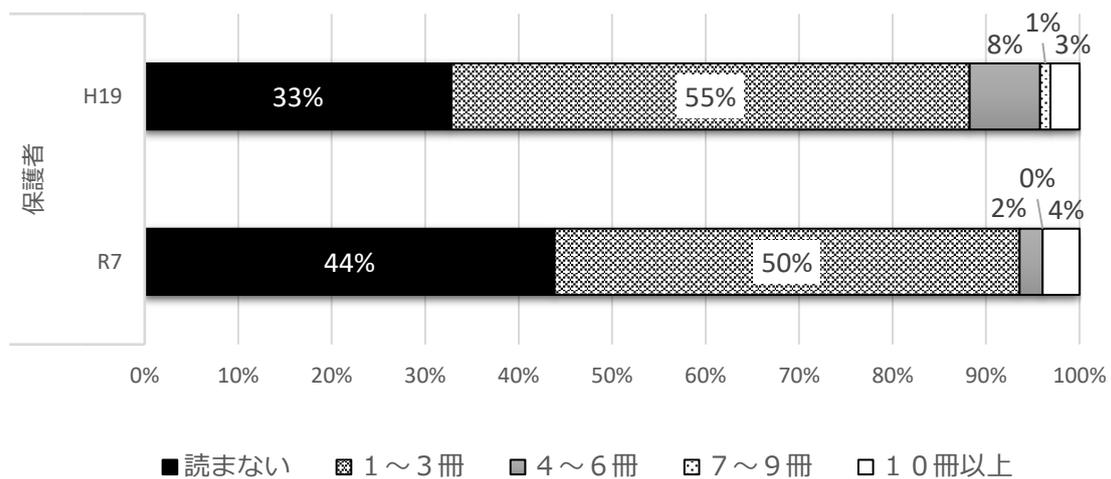
(2)保護者アンケート 集計結果

問1 あなたは読書が好きですか？



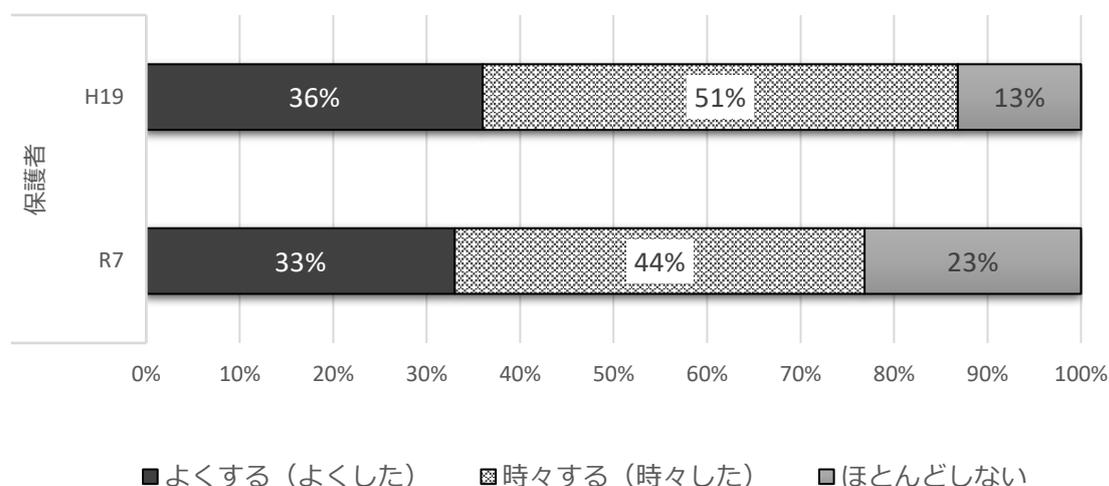
◎「とても好き」「まあまあ好き」と回答した保護者は69%を占めており、読書に好意的な保護者が多いことがわかりました。

問2 1か月の読書量は？



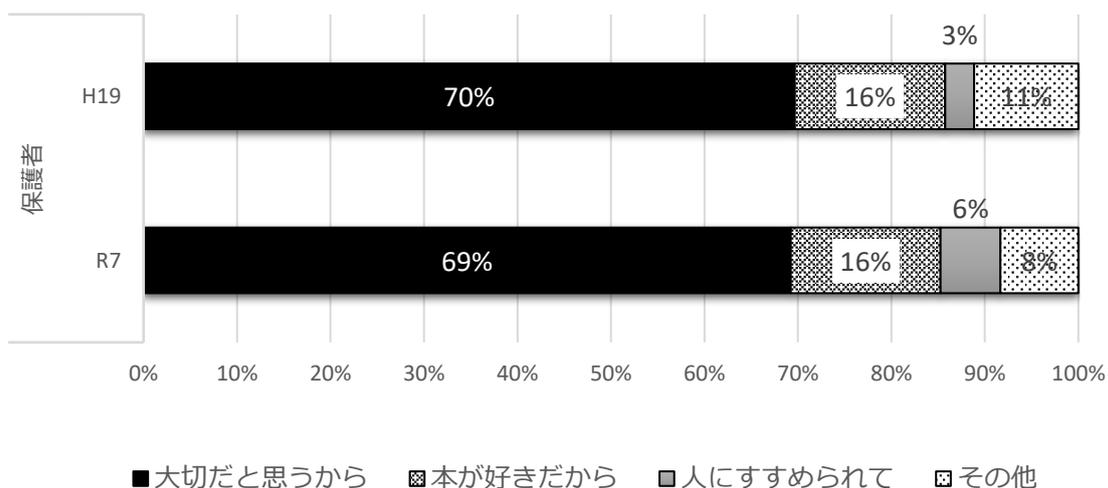
◎「1～3冊」読む人が一番多く、50%を占めています。問1で読書に好意的な保護者が多いことがわかったが、「読まない」人も44%います。時間的余裕等読書以外の要因があることが推察されます。

問3 子どもに読み聞かせをしますか？



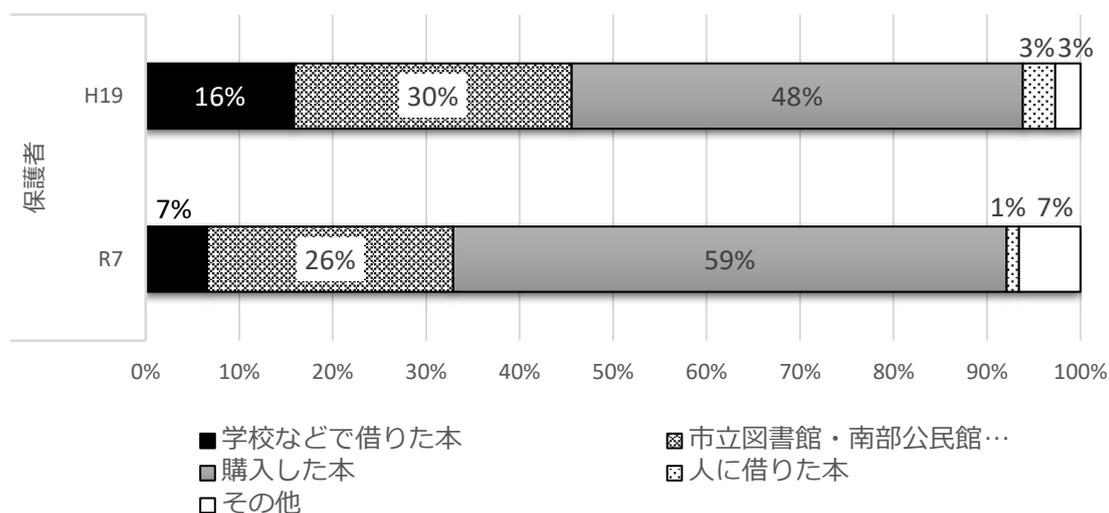
◎「よくする(よくした)」「時々する(時々した)」と回答する保護者が77%を占めています。読書をあまり好まない保護者も、読み聞かせをしていることがわかりました。しかし、前回調査と比較すると読み聞かせをする保護者が10%減少しています。

問3-2 問3で「よくする」「時々する」を選んだ人のみ 読み聞かせのきっかけは？



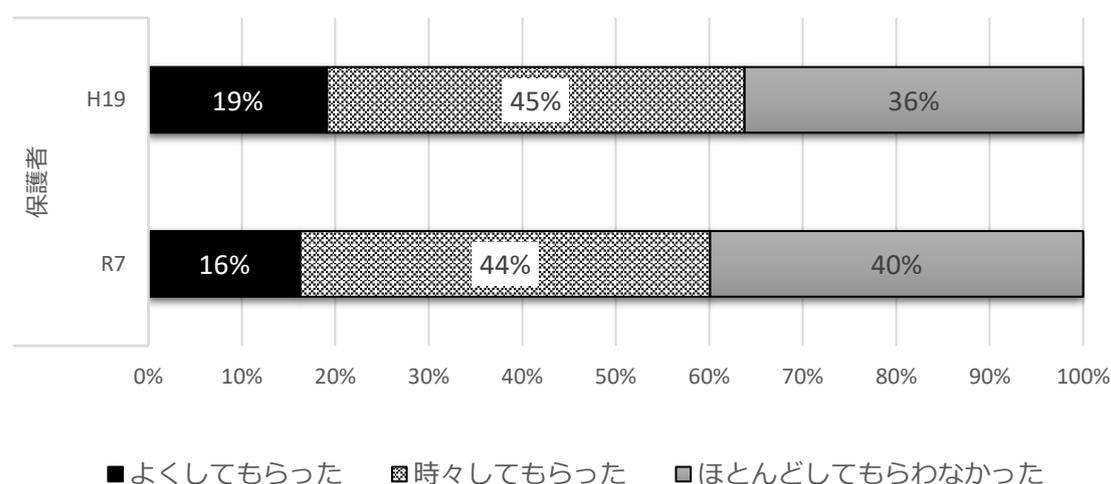
◎「大切だから」と回答する人が最も多く69%を占めています。読み聞かせが重要と感じている保護者が多いことがわかりました。

問3-3 問3で「よくする」「時々する」を選んだ人のみ
 どんな本を読み聞かせで使いますか？



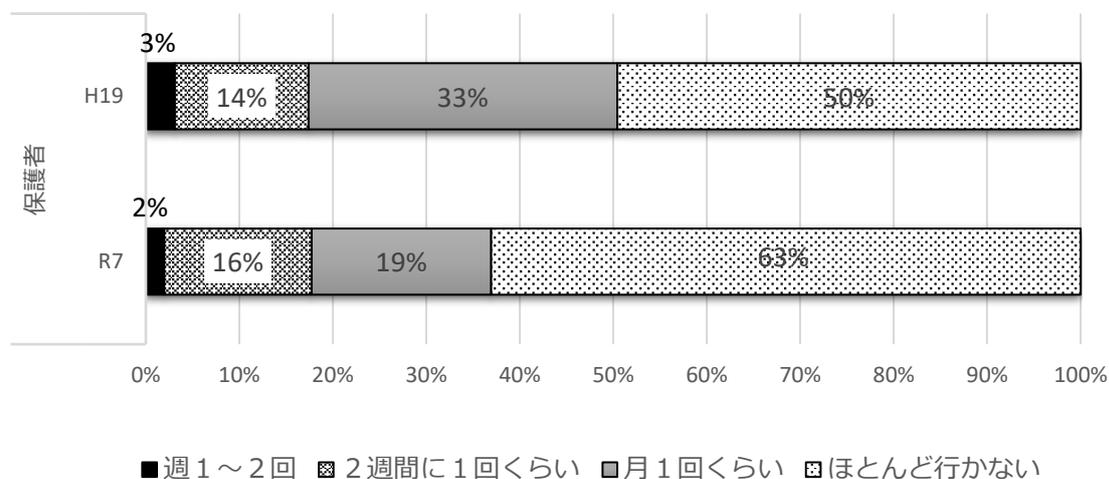
◎「購入した本」で読み聞かせをしている人が最も多く、59%を占めています。前回調査と比較して、11%増加しています。要因の一つとして、コロナ禍の影響もあることが推察されます。

問4 子供の頃、読み聞かせをしてもらいましたか？



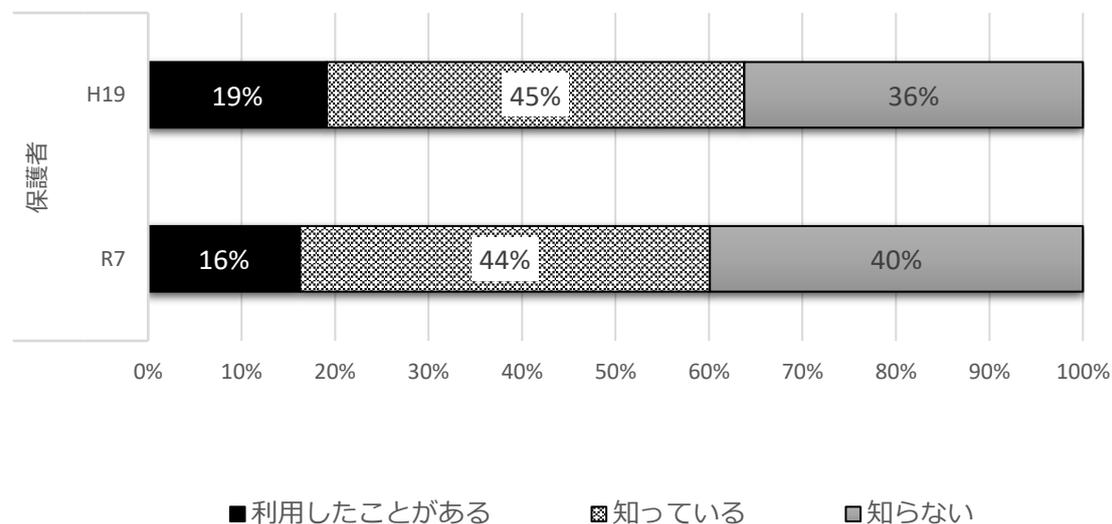
◎「よくしてもらった」「時々してもらった」と回答した保護者が60%を占めています。前回調査と比較して、大幅な減少は見られませんでした。

問5 市立図書館・南部公民館図書室の利用はどのくらいですか？



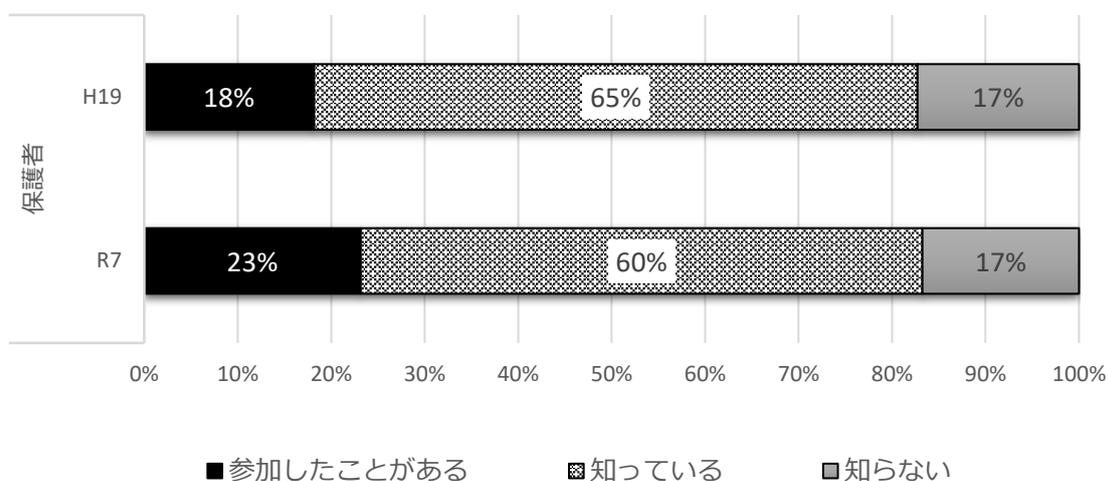
◎「週1～2回」「2週間に1回くらい」と頻繁に図書館を利用する保護者の割合は前回調査と比較して大きな変化はありませんでした。しかし、「ほとんど行かない」の回答が63%を占めており、前回調査と比較すると13%増加しています。

問6 中学生・高校生向けのコーナーがあるのを知っていますか？



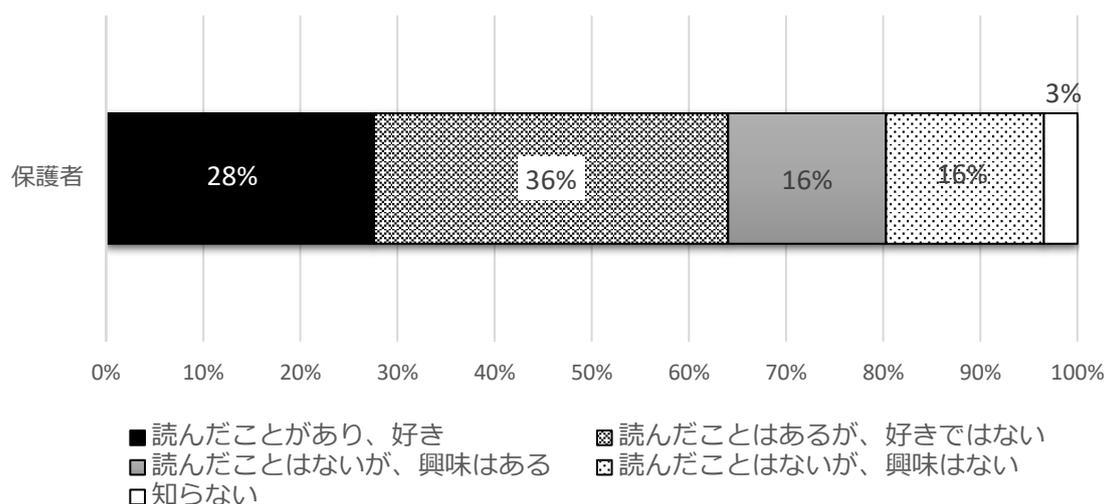
◎「利用したことがある」「知っている」と回答した保護者が60%を占めています。中学生の調査結果との大きな乖離が見られます。

問7 「おはなし会」を知っていますか？



◎「参加したことがある」が23%、「知っている」が60%を占めています。おはなし会自体は83%の保護者が知っていることがわかりました。

問8 電子書籍を読んだことはありますか？また、どう思いますか？



◎「読んだことはあるが、好きではない」と回答する保護者が36%おり、最も多い結果となりました。しかし、電子書籍について「好き」「興味がある」との回答も44%あり、賛否両論であることがわかりました。

第2次豊明市子ども読書活動推進計画

発行日 2026年3月
発行 豊明市
編集 豊明市教育委員会 豊明市立図書館
〒470-1121 豊明市西川町横井4番地11
TEL 0562-92-4946
E-mail tosho@city.toyoake.lg.jp